

～アンケートへのご協力  
ありがとうございました～

令和3年度後期学校評価アンケートは、修学旅行（3年）やチャレンジ体験（2年）など、学年行事を無事に終えられたものの、依然、保護者の方々の来校の機会がほとんどない中での実施でした。にもかかわらず、多くの回答をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

令和3年度の3学期は、健康面・安全面を最優先にした結果、全校生徒が揃う日ばかりではありませでした。2月に入ると、3年生の多くが挑む入試が始まる一方、部活動停止期間がひと月を超えるなど、さまざまな活動が制限される日々が続き、「今できること」「今だからできること」を模索しながら活動しています。

今回のアンケート結果を見て、注目した点について記します。

- (1) 学校生活全般に関する項目（行事・部活動・挨拶・きまり等）では、生徒・保護者ともに「そう思う」「大体そう思う」の回答が多くありました。学校行事や委員会活動等を通じて、成長していく子どもたちの姿と重なります。反面、「学校生活が楽しい」「人権意識を高める取組がされている」などの項目に、（少数ではありますが）否定的な回答をしている生徒がいることをしっかりと受け止めたいと思います。
- (2) 学習面に関する幾つかの項目に、保護者の「あまりそう思わない」の回答がやや多くありました。保護者に来校していただく機会がほとんど持てない中、ご心配をおかけしていることも一因ではないかと思います。今年度は、GIGA 端末を用いた授業や家庭学習を積極的に取り入れた結果、今までと異なる授業スタイルが生まれた年でもあります。しかし、授業のスタイルが変わろうとも、生徒たちに「つける力」を明確にし、学力向上に取り組んでいくことに変わりはないと思っています。
- (3) 生徒たちの大半は、学習面に関する項目に肯定的な回答をしていました。たとえば、「先生方は教え方を工夫し、わかりやすい授業につとめている」という項目に、保護者の回答は、「そう思う」「大体そう思う」といった肯定的回答が約7割でしたが、生徒は9割を上回っていました。一方、「予習や復習など家庭学習に取り組んでいる」では、保護者の約5割、生徒の約6割が肯定的な回答でした。これらの結果から「授業で習うことは理解しているが、家庭学習が習慣化していない」生徒がいると考えられます。また「わかりやすい授業と家庭学習習慣の定着を望む」保護者の思いが伺えます。

多くの生徒たちは、興味を持って授業に取り組んでいます。今後も授業の工夫を継続して行い、魅力ある学びを展開していきたいと思います。同時に、「学ぶこと（知ること）」と「できること（定着する）」はイコールではないことを共通理解していきます。